

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

平成24年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

平成 24 年度 事業報告

平成 22 年 4 月に、財団法人 大阪国際児童文学館が再スタートしてから 3 年目、平成 24 年度のキーワードは「移行」でありました。

まず、新公益法人制度への移行については、寄附行為の改正、組織機構・役員の改編、公益事業目的支出計画の作成等、これまでの運営を抜本的に変更するものであることから、諸手続きに相当の日時を要しましたが、予定どおり平成 25 年 4 月 1 日に「一般財団法人」へ移行するとともに、名称を変更し、「一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団」としてスタートすることができました。これにより、将来にわたって当財団の法的・組織的な基盤は、確立することができたと考えております。

そして、大阪府における、旧国際児童文学館から「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」への移行期間が満了することから、移行後の「国際児童文学館」の更なる発展・充実をめざして、当財団と府立中央図書館との新たな関係を構築することがもう一つの課題でありました。

大阪府教育委員会および中央図書館と協議を重ね、平成 25 年度以降の枠組みとして、専門員の雇用を最長 3 年間延長、および財団が行っている寄贈資料の受入れ業務について、大阪府からの受託事業とすることとなりました。これにより、引き続き大阪府および中央図書館と緊密に連携・協力を図り、所期の目的であります「国際児童文学館」が、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できるよう必要な役割を果たしていくことができると考えております。

事業については、これまでどおり積極的に幅広く展開してきたところですが、必要なマンパワーの確保と、それを支える安定的な財政的裏づけのありようについては、いまだ将来への展望を見出しうる状況には至っておりません。今後さらなる努力が必要と考えております。

個々の事業については、平成 24 年度事業計画にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 理事会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	24.6.29	(1) 平成23年度事業報告について (2) 平成23年度収支決算について (3) 平成24年度補正予算について
第2回	24.9.28	(1) 財団法人大阪国際児童文学館寄附行為の変更案について (2) 一般財団法人への移行認可申請書類について (3) 役員等の報酬等に関する規程の改正について
第3回	25.3.22	(1) 平成25年度事業計画について (2) 平成25年度収支予算について

2. 評議員会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	24.6.22	(1) 平成23年度事業報告(案)について (2) 平成23年度収支決算(案)について (3) 平成24年度補正予算(案)について
第2回	24.9.28	(1) 財団法人大阪国際児童文学館寄附行為の変更案(案)について (2) 一般財団法人への移行認可申請書類(案)について (3) 役員等の報酬等に関する規程の改正(案)について
第3回	25.3.15	(1) 平成25年度事業計画(案)について (2) 平成25年度収支予算(案)について

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめる。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣する。

- ・実施回数：35回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：教員（7回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（16回）、司書・学校司書（12回）

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

①講演会の実施（北村基金の活用）

子どもの本への関心を深めたり広げたりするための講演会を実施する。

- ・開催日時：平成24年11月3日（土・祝）
- ・場所：大阪府立中央図書館
- ・内容：作家の講演会
- ・講師：デイヴィッド・アーモンド（英国の児童文学作家）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・共催：JBBY
- ・参加者：74人

②フォーラムの実施

- ・開催日時：平成24年9月29日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館
- ・内容：子ども文学と文化を問い続けて
— 児童文学者 中川正文の仕事を顧みる —
- ・講師：松居直（福音館書店相談役）他
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：85人

*子どもゆめ基金助成事業

③子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣する。

子どもの本を楽しむ会（11回）

保護者向き児童文学・絵本講座・フォーラム（10回）

岸和田市子ども読書活動推進計画策定委員会委員（7回）

第22回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）

平成24年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部障がい福祉室）

第15回は一と&は一と絵本原作コンクール選考委員会（大阪市教委）
第31回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府）
国際フォーラム「図書館のYAサービスの可能性ーハンブルク青少年図書館
と日本の事例から」コーディネーター（ゲーテ・インスティトゥート・ヴィ
ラ鴨川）

2. 本と子どもを結ぶ活動

(1) 学校等でのワークショップの開催

学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計8件実施した。

中学生（2件）、小学生（3件）、図書館（1件）、少年自然の家（1件）
日中韓子ども童話交流2012（於：韓国 1件）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

大阪府域の児童養護施設でおはなし会や人形劇を開催した。（9回）

*財団法人高津成和会助成事業

(3) 図書館等でのおはなし会の実施

①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会と人形劇を開催した。

出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

おはなし会 5回、人形劇1回

②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2回）

出演：職員、おはなしポップ

(4) 作家との絵本作りワークショップの実施

アメリカ合衆国の絵本作家デイヴィッド・ウィーズナー氏を招いて、子ども向け絵本作りワークショップを開催した。

アメリカの絵本作家デイヴィッド・ウィーズナーと絵本を作ろう！

・日時：平成25年3月25日（月）

・場所：万博記念公園内 自然観察学習館

・参加者：小学生27人 大人36人

*後援：大阪府立中央図書館

*賛助企業：近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、
パナソニック株式会社、株式会社富士通システムズ・イースト
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

*独立行政法人 日本万国博覧会記念機構助成事業

(5) 図書館での街頭紙芝居の実施

・事業名：むかしの紙芝居・子どもの絵本を楽しもう

・日時：平成24年8月11日（土）

・場所：大阪府立中央図書館 大会議室

- ・出 演：三邑会・当財団職員
- *後 援：大阪府立中央図書館、三邑会
- *子どもゆめ基金助成事業

(6) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向きイベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・日 時：平成24年11月11日（日）
- ・定 員：240人（申込者：452人 約1.9倍）
- ・参加費：500円
- *協 賛：大阪高速鉄道株式会社、独立行政法人日本万国博覧会記念機構、
阪急不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション
- 協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回 数：3回（自主研修・打ち合わせ研修）
- ・対 象：平成24年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの語り方、絵本の選び方、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配付等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：16名
- ・活動回数：16回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1回）、
大阪府立中央図書館こども資料室（5回）
児童養護施設（6回）、吹田市立山田駅前図書館（2回）
EXPO'70パビリオン（2回+展示受付7日）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：5名
- ・活動回数：3回
- ・活動場所：大阪府立中央図書館（1回）、おはなしモノレール（1回）
児童養護施設（1回）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第29回ニッサン童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 2,335 点（前年 2,052 点） 絵本 476 点（398 点）
計 2,811 点（2,450 点）
- ・予備審査：平成 24 年 11 月 16 日（金）～19 日（月）
- ・本審査：平成 24 年 12 月 8 日（土）、9 日（日）
- ・表彰式：平成 25 年 3 月 3 日（日）大阪府立中央図書館
- *協賛：日産自動車株式会社

III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

○「ほんナビきっず」の開発・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通システムズ・イーストとともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。

新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：817冊

IV 子どもの本を通じた国際交流事業

絵本を通して、諸外国と日本の文化の相互理解を深めるとともに、国内外の研究者のネットワーク構築に寄与し、児童文学及び児童文学研究の促進を図る。

1. 国際児童文学研究賞事業

「国際グリム賞」。世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。

平成 24 年度は、第 14 回受賞者の選考を行った。

- ・アンケート 発送 平成 24 年 9 月 11 日
締め切り 平成 24 年 11 月 15 日
- ・選考 第 1 次選考会議 平成 24 年 12 月 16 日
第 2 次選考会議 平成 25 年 3 月 27 日

*主催：財団法人 大阪国際児童文学館、財団法人 金蘭会、
大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

2. 国際講演会の開催

絵は物語る ― 絵本作家デイヴィッド・ウィーズナーの世界

- ・日時：平成 25 年 3 月 24 日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館 大会議室
- ・講師：デイヴィッド・ウィーズナー（アメリカ合衆国）
- ・参加者：95 人
- ・参加費：1,000 円

*後援：大阪府立中央図書館、大阪府子ども文庫連絡会

*賛助企業：近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、
パナソニック株式会社、株式会社富士通システムズ・イースト、
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

3. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

4. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」をホームページで、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ① 国際児童文学学会（オーストラリア）
- ② 国際児童図書評議会（カナダ）
- ③ フィンランド児童文学研究所
- ④ ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ⑤ グリム博物館（ドイツ）
- ⑥ スウェーデン児童文学研究所
- ⑦ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑧ Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑨ 建国大学 童話と翻訳の研究所（韓国）
- ⑩ 浙江師範大学 国際児童文学館（中国）
- ⑪ アメリカ議会図書館（アメリカ合衆国） 等

V 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会への参画

大阪府が推進する「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、標記協議会に委員として参加し、会議に出席した（2回）。

VI 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「紀要」で発表するほか、当館のホームページに登載

するなど広く普及し活用を図る。

(1) 明治期児童雑誌研究プロジェクト

『少年世界』などの明治時代に出版された児童向け雑誌について、平成 20 年度文部科学省科学研究費助成事業で作成した、明治時代の雑誌の内容細目データを活用しながら外部研究者とともに研究を行った。

- ・研究会（4回 平成 24 年 6 月 2 日、9 月 17 日、12 月 22 日、平成 25 年 3 月 10 日）
- ・『国際児童文学館紀要』第 26 号（論文 2 本）

(2) 「明治・大正期における児童出版文化史」の研究

故・南部新一氏（元博文館編集者）旧蔵資料にある巖谷小波作品を中心に、調査研究を外部研究者とともに行った。

- ・研究会（6回 平成 24 年 5 月 2 日、6 月 23 日、8 月 25 日、10 月 13 日、12 月 23 日、平成 25 年 2 月 18 日～20 日）
- ・ラウンドテーブル「南部新一書簡から見えてくるもの」（日本児童文学学会第 51 回研究大会、千葉大学、平成 24 年 10 月 28 日）
- ・『国際児童文学館紀要』第 26 号（研究ノート 3 本）
- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）23～25 年度

2. 出版企画・展示企画

児童文学・文化振興のため、次のとおり出版・展示事業を実施した。

(1) 「第 28 回ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品『ぐうたら道をはじめます』
 - ・絵本大賞受賞作品『ぴっちとりた まよなかのサーカス』
- B L 出版（株）と提携 平成 24 年 12 月刊行

(2) 国際交流事業報告集の発行

- ・2012 年度国際交流事業報告集「国際講演会 絵本作家デイヴィッド・ウィーズナーの世界 絵は物語る／子ども向けワークショップ 絵本作家デイヴィッド・ウィーズナーさんと絵本をつくろう！」を発行した。

(3) 財団発行資料の販売

「国際児童文学館紀要」や論文集等を販売した。

2010 年度国際交流事業報告集	1 3 冊
2011 年度国際交流事業報告集	8 8 冊
フォーラム報告集	7 冊
アジアの論文集	8 冊
所蔵紙芝居目録	1 冊
国際児童文学館紀要	2 1 冊

(4) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務受託

明治大正期の貴重資料のレプリカ、復刻版作成等

- ・「進研ゼミおすすめ本 1000 冊」ベネッセコーポレーションから受託
推奨本の追加・変更107冊を選定し、子ども向け紹介文を作成した。
- ・博文館創業 120 周年記念「少年少女譚海」の復刻（博文館新社発行）
「少年少女譚海」1920～1944 年、博文館発行、全 300 冊

(5) 博物館、文学館等における展示

- ・開催日時：平成 24 年 11 月 1 日（木）～29 日（木）
- ・場 所：EXPO' 70 パビリオン（万博記念公園内）
- ・テ ー マ：万博のころ子どもだった・・・ in EXPO' 70 パビリオン
- ・内 容：1970 年代を中心にした子どもの本の展示、街頭紙芝居の上演、
人形劇&おはなし会
- ・対 象：大人と子ども
- ・後 援：大阪府立中央図書館、一般社団法人 関西環境開発センター
*独立行政法人 日本万国博覧会記念機構助成事業

3. 論文集「国際児童文学館紀要」第 26 号の発行（北村武子記念事業）

論文の公募を実施 論文 1 本

特別研究員および当財団職員による論文等 5 本 計 6 本掲載

4. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は 7 名。上記 1 の共同研究、『紀要』への寄稿等の協力を得た。

VII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

受入件数：図書 10, 106 冊、雑誌 8, 854 冊、その他資料 2, 656 点 計 21, 616 点

（うち、中川資料 図書 7, 037 冊、雑誌 4, 102 冊、その他 1, 753 点、計 12, 892 点）

VIII 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業その他

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきつず」の管理・運営
- ③ 「日本の子どもの本 100 選」の管理・運営
- ④ 「本の海大冒険」の管理・運営
- ⑤ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

毎月 1 回 (20 日頃) 発行。

登録会員数：1,052 人 (平成 25 年 3 月 21 日現在)

2. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ、事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) 広報刊行物の発行

財団の 1 年間の活動状況を報告するレポート「財団法人大阪国際児童文学館 REPORT No.2」を発行した。年 1 回

3. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

平成 24 年度実績 156 件 2,251,840 円